

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 東京都稲城市立平尾小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0823

東京都稲城市平尾3-1-3

E-mail inehirao@educet.plala.or.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 284 名 女子 306 名 合計 590 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は今年度の目標を「平尾活性化プロジェクト～人や地域との豊かなつながりと体験を軸に～」とした。I～VIの概念のうち特に①相互性②公平性③連携性④責任性の4つの概念と、能力・態度のうち特に①他者と協力する態度②コミュニケーションを行なう力③進んで参加する態度の3つをあらゆる教科・領域の時間においてESDの視点で指導することに重点をおき実践した。

地域の教育資源を生かした自然体験や社会体験、交流活動を通して、他者と協力し互いに思いやる心情や態度、多面的・総合的に考える力、郷土を愛する心情等を培う。中学校との連携を図りより関連性・発展性のある学習を実践した。

各学年身に付けさせたい力と学習活動

○第1学年 生活科「なかよしいっぱいだいさくせん」「ふれあいひろば」

他者と協力する態度・コミュニケーションを行なう力

相互性、連続性、多様性、有限性、責任性

○第2学年 生活科「ぐんぐんそだてみんなの野菜」「もつとなかよし町探険」

他者と協力する態度・コミュニケーションを行なう力・つながりを

尊重する態度

- 相互性、連続性、多様性、責任性
- 第3学年 総合的な学習の時間 「平尾くだものはかせ」「とびだせ平尾たんけんたい」  
他者と協力する態度・コミュニケーションを行なう力・つながりを尊重する態度
- 第4学年 総合的な学習の時間 「バリアフリーってなあに」「こんなに大きくなりました」  
他者と協力する態度・コミュニケーションを行なう力・すすんで参加する態度・多面的、総合的に考える力  
連続性、公平性、有限性、責任制、多様性
- 第5学年 総合的な学習の時間 「お米プロジェクト」「新1年生と交流しよう」  
他者と協力する態度・コミュニケーションを行なう力・すすんで参加する態度  
相互性、連続性、公平性、有限性、責任制、多様性
- 第6学年 総合的な学習の時間 「野沢・平尾の誇り」「野沢宿泊体験学習」「平尾活性化プロジェクト」  
他者と協力する態度・コミュニケーションを行なう力・すすんで参加する態度  
相互性、連続性、有限性、責任制、多様性

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

1・2学年は生活科 3～6学年は総合的な学習の時間で実践を行なった。

【指導の工夫・特色】

- 学習指導案にESDの視点を必ず記載して、ねらいを明確化した学びの充実を図る。
- 学校支援コンシェルジュと連携して地域人材を積極的に活用する。
- 地域での体験学習や地域の人々との交流を通して、平尾の自然・文化・産業・歴史、そして地域の良さ等について理解を深める。
- 未来の平尾のよりよい街づくりへの提案を考え、表現して行動する力の育成を図る。
- 人とのふれあいや交流を通して他人との関連性、社会との関連性を育むとともに年度末にESDカレンダー、年間指導計画の見直しを行なう。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- 組織的かつ継続的な活動にするためにESD推進員を中心となり、各学年の進捗状況等を確認しながら推進している。
- 身に付けさせたい力と学習活動内容を各学年ごとに設定し、ESD全体計画に明記し1学年から6学年まで意図的、計画的な指導を行なっている。
- ESDカレンダーを活用して他教科との関連を図りながら指導を行なっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- 学校評価アンケートを保護者、外部機関に実施。
- 活動を通して地域や自然について【つながりを尊重する態度】【他者と協力する態度】【すすんで参加する態度】が育成された。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)  
※チェック事項 2-3 に対応

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)  
※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

稲城市のESD＝「ESDの理念を生かし、各教科、領域の目標をより効果的に達成する」を受けて、日々の授業や教育活動が、児童の将来どのような場面で生きるかを常に意識して活動する。特に、「学校支援コンシェルジュ」の活用、地域教育懇談会の充実、地域の自然や文化財を活用した指導など、地域と連携した教育活動の充実を図っていく。